

記 者 会 見

日 時 令和7年8月25日(月)

午後2時から

場 所 市役所3階 大会議室

1 令和7年度9月補正予算(案)の概要について

- ・今年度の9月補正予算案は、「物価高騰対策」、「環境にやさしく、誰もが安心して暮らせるまちづくり」、「地域シンボルの保存・活用と観光地の磨き上げ」の3点がポイントです。
- ・「物価高騰対策」は、福祉サービス事業所や保育園等に対する支援です。利用者、園児、保護者が安心してサービスを受けられるような環境を整備しようとするものです。
- ・それから、災害時の避難所となる学校体育館空調の整備を、誰もが安心して暮らせるまちづくりの中に位置付けています。
- ・地域シンボルの保存・活用と観光地の磨き上げについては、越前和紙バレー創造事業整備計画に基づく、宿泊施設の整備についての支援です。

- ・予算の全体の規模は、4億 4,651 万 4,000 円です。
- ・昨年度の9月補正予算の6億 8,026 万円と比べると、2億3,300万円ほどの減となっています。
- ・要因は、1つは繰越金の減に伴い、財政調整基金への積立額が、1億4,000万円ほど減っていること。
- ・それから、昨年度は、紫式部プロジェクト協議会への負担金、そして、豪雨災害に伴う農業施設への支援、この2つを合わせて約1億円を計上しましたが、それらが減ったものです。

- ・それでは、順に説明します。
- ・まず、介護施設等への電気料金の高騰分の支援です。
- ・介護・障害福祉サービス事業所の運営が、電気料金の高騰で厳しい状況にあります。
- ・このような事業所がきちんと運営できることは、高齢者あるいは障害者の方が必要なサービスを受ける上で、極めて重要ですので、電力需要の高まる夏場、そして、冬場の電気料金の高騰分を支援することとしました。
- ・現在、国、県は、夏場の支援を行っていますが、最終的には冬場の支援を行うであろうと見込んでいます。
- ・事業所のみなさんのために、支援のための手続きを簡便にする、そして早く支援するというので、市では、先行して冬場の支援を併せて行うようにしました。
- ・対象期間は、7月から9月までと、年明けの1月から3月まで。この6か月分を見込んでいます。

- ・次に、保育園等への電気料金、給食食材費の高騰分の支援です。
- ・民間園についても、先ほどの介護・障害福祉サービス事業所と同様、電気料金の高騰で運営、経営に影響が出ていますので、子どもたちが安心して保育を受けられる状況を作るため、同様の電気料金の支援を行う予定です。夏場と冬場での支援です。
- ・また、給食の食材費についても物価高騰の影響を受けていますので、これについては、民間園も公立園も保護者負担の影響を抑え、保護者に負担増を求めることなくおいしい給食を出せるよう支援するものです。
- ・電気料金については民間園の18園、給食食材費については民間と公立の両方を支援するものです。

- ・次に、ひとり親家庭等への大学等受験料助成です。
- ・市はこれまでも、ひとり親家庭向けに児童就学等支援金、あるいは高校生の通学定期代等の助成を行っていますが、今回、大学あるいは専門学校等の受験料を支援することとしました。
- ・県の方でも制度化をしたので、これに合わせ、市でも支援するものです。
- ・経済的な理由で進学を諦めることがないように、チャレンジを応援するものです。

- ・次は、学校体育館の空調整備、中学校施設営繕事業です。
- ・補正額は1,420万円です。
- ・学校体育館は、災害時には指定避難所となります。
- ・能登半島地震、あるいは各地の災害の例をみても、避難所の環境は非常に重要です。
- ・災害関連死等が起きないように、しっかりと整備する必要があると考えています。
- ・もちろん、体育館は、授業や部活動、行事など、子どもたちが普段使うものであり、今年のような猛暑になると、健康や安全を守るため、空調が必要だと思っています。
- ・災害の備え、そして子どもたちの教育、この2つの観点から、空調をやるものです。
- ・当初予算で調査費を持ちましたが、これに基づき具体的な内容が固まったので、予算を持つものです。
- ・最終的には、すべての小中学校に整備をするという方針ですが、財政的に、一度に整備することは難しいので、まず、大人数の避難が可能な中学校体育館を先行したいと思っています。
- ・今年度は、武生第一中学校、武生第五中学校、南越中学校の3校について実施設計を行い、来年度、空調の整備を予定しています。
- ・残り4つの中学校は、来年度実施設計を行い、令和9年度に空調を整備する予定です。
- ・小学校についても、中学校の整備が済む令和10年度から整備を進めます。令和9年度には設計の予算を持てるのではと思っています。

- ・次は、生ごみ処理機の奨励金です。
 - ・ごみの減量化を進めており、特に、生ごみの減量化、あるいはそれを有効活用する堆肥化を進めるため、生ごみ処理機の奨励金を出しています。
 - ・当初の想定を上回る申請があり、当初予算の30件分に40件を追加します。
 - ・引き続き、脱炭素やごみの減量化に、市民のみなさんと一緒に取り組みたいと思っています。
-
- ・次に、宿泊施設の整備です。
 - ・北陸新幹線開業から1年半が経過します。
 - ・開業効果を一時的なものではなく、持続的かつ拡大させていく必要があります。
 - ・そのためには、たくさんの人に来てもらい、滞在時間を長くし、消費額を増やすことが必要です。
 - ・しかし、泊まる場所が少ないことが、非常に大きな課題となっています。
 - ・伝統産業などを生かしたまちづくりを今後進めていく中で、越前和紙バレー創造事業整備計画というものを作りました。
 - ・和紙の産地を中心とするエリアを整備し、富裕層、インバウンド、クリエイターなどが関心を持つエリアに、宿泊施設等の整備を行うものです。
 - ・今回、計画の対象エリアにおいて、宿泊施設の新たな整備と改修に対する補助金の応募があり、計画に合致していることから、県と合わせて支援を行うものです。

2 自動運転バスの実証実験について

- ・昨年度に引き続き、今年度も国交省の補助金の採択を受けることができました。
 - ・これを活用し、自動運転の実証実験を10月に行います。
 - ・10月10日から22日まで一般運行を行い、10月9日に出発式を行う予定です。
 - ・昨年度は、武生駅から中心市街地、総社大神宮の前を回るコースでしたが、今回は、より長い距離、たけふ菊人形の会場、武生中央公園までを走行させたいと考えています
-
- ・昨年度は、458人と、たくさんの方に乗車してもらいました。
 - ・武生中央公園まで走行してほしいという要望が強かったので、今年度は、レベル4での自動運転技術を搭載した新しい車両、EVO(エヴォ)を使って、全体として長い距離を走ります。
 - ・市役所前をスタートし、総社大神宮の前を通過して南に進み、文化センターの前で方向転換し、アイシンスポーツアリーナまで行きます。そこから引き返し、市役所前へ戻るというコースになります。
 - ・駐停車中の車両や一般車両が多いと思われ、少しハードルが上がります。
 - ・自動運転は、技術的なこともさることながら、社会的受容といいますか、市民のみなさん、あるいは一般車両のみなさんが自動運転に理解を示し、通してあげるということも重要

です。

- ・運行期間は、たけふ菊人形の開催期間の中の約 2 週間です。
 - ・車両のラッピングは、武生商工高校の生徒さんをお願いする予定です。
 - ・昨年度の車両よりも、センサーがたくさんついていきます。カメラも高性能になっており、信号機の色認識が可能です。
 - ・昨年と同様、今回もレベル2での運行であって、部分的な運転操作を手動で行いますが、レベル4の機能を持った車両を使うところが一番大きな違いかと思っています。
-
- ・距離は、昨年が 1.2 キロでしたが、今回は 3.4 キロとなり、運行時間は 20 分間です。
 - ・信号機の情報自動運転車両に送信する「信号協調システム」という仕組みを設置します。信号を読み取りながら自動運転が行われることが、1 つ特徴だと思っています。
-
- ・10月9日に出発式を行い、10日から22日まで、午前中3便、午後5便、計8便を運行する予定です。
 - ・乗車料金は、今年も無料です。
 - ・事前に専用の予約アプリから申し込む必要があり、9月25日から申し込みを受け付けます。
 - ・予約が空いてれば、当日その場でも乗車できるようにしたいと思っています。
-
- ・5年後、10年後には、自動運転が当たり前の交通システムになり、現在の交通システムと調和・融和しながら、運行されることになるのではないかと考えています。
 - ・この越前市において、一般車両が通行する中で自動運転を行うことに、すごく意味があると思っています。

3 ウェルビーイング指標について

- ・総合計画に掲げた政策を具体的にチェックし、状況を把握し、そして政策に反映するため、昨年度、ウェルビーイング指標を作りました。
 - ・アンケート調査に基づく13項目の主観的指標と、統計データを活用した20項目の客観的指標の 2 つで構成しています。
 - ・最新の状況に置き換えたので、その数値をお示しします。
 - ・全体としては、ほとんどの指標で5段階評価の中央値である3を超えており、一定程度幸福度をクリアしていると思います。
-
- ・3を超えていないものの1つは、「行きたいところに行ける交通手段があると思うか」という設問です。北陸新幹線の開業に伴い、関西方面との交通が不便になったことが影響しているのではないかと推測しています。

- ・また、聞き方に課題があったので、来年度は「市内の行きたいところに行けるようになっているか」と限定して聞く必要があると思っています。

- ・もう1つは、「住んでいる地域の10年後の未来は明るいと思うか」という設問です。
- ・地域の高齢化が進んでいたり、自分自身が年をとることに対する不安というのがあったりして、その心配が表れているのかと思います。
- ・高齢化に伴う諸政策に、さらに力を入れなければと感じたところです。

- ・高齢化に関連して、健康寿命に関する指標を設定し直しました。
- ・65歳まで到達した人の平均寿命は、男性が85歳、女性が89歳です。
- ・この年齢までは、介護を受けることなく健康に暮らせることを目標として設定しました。
- ・特に、フレイルや認知症の予防に力を入れ、単に長生きすればよいというものではなく、元気に活動しながら長生きができるようにするための政策に力を入れていきたいと思っています。

4 コウノトリ「ゆうきくん」の放鳥について

- ・平成26年6月に白山地区で生まれたコウノトリの「ゆうきくん」を、9月2日の午前10時から、横住町、もやいの郷付近の圃場で放鳥する予定です。
- ・私も立ち会いますが、地元・服間小学校の児童60人、それから、認定こども園の園児15人、合わせて75人も放鳥に立ち会う予定です。
- ・本市で日野川よりも東側で放鳥するのは初めてです。
- ・これまでは、白山地区での放鳥が多かったのですが、市全域でコウノトリが舞う環境づくりを目指していきます。
- ・「ゆうきくん」は、托卵により福井県では50年ぶりに誕生したコウノトリです。

その他

- ・9月15日に、たけふ祭りが開かれます。
- ・この日は、総社大神宮のお祭りもあり、夕方には神輿があります。
- ・地元の実行委員会、若い人たちが中心となり、初めてたけふ祭りというものを行います。
- ・市は、まちなかの元気をつくる若い人たちを「シン・町衆」と呼んで、応援を続けてきました。それが具体化したことの1つです。
- ・北陸新幹線越前たけふ駅前と、武生のまちなかをつなぎ、そのエリアを市民や来訪者が行き交う、ウォーカブルなまちづくりをしていきたいと思っています。
- ・先日のサーバーフェスティバルや花火大会も、大変な人出でしたが、このようなお祭りが市役所の前や総社大神宮の前で展開されることが、地元に対する誇りや愛情につながるのではないかと思います。

- ・9月18日に、若泉敬先生を顕彰する特別講演会を行います。
- ・元外務事務次官であり、初代国家安全保障局長である谷内正太郎さんに講演をお願いしたいと思っています。
- ・地元の中学生在が参加します。
- ・越前市市制施行20周年、そして、戦後80周年の記念事業でもあり、様々な展示等も予定しています。

質疑応答

Q

- ・9月18日に行われる若泉敬さんの顕彰特別講演会について、開催に至った経緯と、市長の思いをお聞かせください。

A(山田市長)

- ・今年は、戦後80年の節目であり、沖縄については、様々なメディアで取り上げられています。
- ・私が中学校1年生のとき、若泉敬先生が、中学校に来て講演をされました。
- ・その際の立ち振る舞いや志の強さというものを、肌で感じることができました。
- ・それを思い起こして、いま一度、今の中学生たちに若泉敬先生のことを知って欲しいという気持ちが出てきました。
- ・今回講演をされる谷内正太郎さんは、若き日に若泉敬先生のご自宅で書生として過ごされ、身近に接しておられました。
- ・また、谷内さん自身も、外務事務次官として、また国家安全保障局長として、日本の国際社会の中での振る舞いというものを十分に承知しておられます。
- ・若泉敬先生を知っていただきたい。そして、先生のことをよくご存じの方に来て講演をしてもらいたい、と思いました。
- ・もう1点、今、ウクライナをはじめ、色々な場所で国際紛争が起きています。
- ・そのような中、世界の中での日本というものを教えてもらえると、大変意義があるのではないかと思います。
- ・そこで、直接谷内さんを訪ね、地元の中学生にお話をしていただけないかとお願いをしたところ、お引き受けいただき、この講演会の運びとなりました。
- ・若泉先生のふるさとということで、谷内さんにも思い入れがあったのだと思います。
- ・この講演会を機に、色々な資料の展示も行います。
- ・若泉敬先生が命をかけて大きな問題に取り組んだことを、いま一度、地元の人や県内の人に思い起こしていただきたいと思っています。

Q

- ・物価高騰対策として行う電気料金の支援について、介護施設の補助単価は 3,600 円であるのに対し、保育園等は840円となっています。どうして、これほど差があるのでしょうか。

A(佐竹財務企画課長)

- ・介護施設、保育園等の電気料金の支援単価については、県の6月補正予算の額に合わせています。
- ・県は、これまでの国の支援のあり方、あるいは事業所へのサンプル調査等を踏まえ、単価を設定していると聞いています。

A(牧野長寿福祉課副課長)

- ・介護施設については、例えば入所施設の場合、全館24時間空調を入れるところもあります。
- ・通所施設の場合も、施設全体に空調を入れたり、また、お風呂を沸かしたりします。
- ・保育に比べて、電気を使う割合が高くなっています。
- ・保育園等は、全館を一斉に冷やすということではなく、保育室だけ、お遊戯室だけと、その都度空調を使用します。
- ・そのため、保育の方が、比較的低い単価設定となっています。

Q

- ・学校体育館への空調の整備について、今年度、実施設計で 1,420 万円の予算額となっています。
- ・実際の工事にはもっとお金が必要だと思いますが、工事費は、来年度の当初予算で措置するのでしょうか。

A(佐竹財務企画課長)

- ・来年度当初予算において、今回の実施設計踏まえて金額を確定し、財源等も含めて検討する予定です。

Q

- ・コウノトリの放鳥について、「ゆうきくん」は11歳ですが、まだ繁殖が可能なのでしょうか。
- ・また、放鳥場所が白山地区ではなく、今立地区というのは、ナワバリを守ったり、近親交配を避けたりする意味があるのでしょうか。

A(山田市長)

- ・これまでは、白山地区を中心に放鳥をしてきましたが、市内全体、至るところでコウノトリが飛んでいる、暮らしているという環境が最終的な姿だと思っています。
- ・そのため、今回はエリアを変えて放鳥するものです。

A(谷口農政課副課長)

- ・「ゆうきくん」は、繁殖可能です。ただ、11歳なので、難しい部分もあるのではないかと、県から聞いています。
- ・ナワバリについては、巣から直径約2キロ離す必要があります。
- ・日野川西側地区には、ナワバリが3つ構築されているため、こちらでの放鳥は難しいのに対し、東側地区には1塔もないということで、そちらを放鳥場所を選んだと聞いています。
- ・平成26年に孵化した3羽のうち、1羽と近親交配になる可能性があることから、豊岡市で飼育していたと聞いています。

Q

- ・自動運転バスの実証実験について、今年は武生中央公園までを運行することとなっています。
- ・市民や観光客が一番求めているのは、越前たけふ駅と市街地を結ぶことだと思います。
- ・来年とは言いませんが、いつか、そのお考えはあるのでしょうか。

A(山田市長)

- ・新幹線の駅とまちなかを自動運転のシャトルバスで行き来するのが、将来的な理想だと思います。
- ・ただ、途中の道路状況を鑑みると、現状では厳しいです。
- ・例えば、いま県に要望しているとおり、村国山にトンネルができ、専用レーンができたとしても、途中で川にぶつかります。それをどのように越えていくのかや、まちなかに入ってどのように進むのかという課題があります。
- ・1～2週間の期間の実証実験で行うのは、難しいと思います。
- ・今年の実験結果や、日本全体の技術的な進歩を見なければいけませんが、来年、再来年にそれを実現する自信はありません。

Q

- ・越前たけふ駅駐車場の有料化や増設について、進展はありますか。

A(山田市長)

- ・駐車場については、今年100台分を増設します。

- ・9月12日、シルバーウィークが始まるまでに約80台分が完成します。
- ・並行して、有料化については、どのようなやり方があり、どれだけ費用がかかり、どのような事業者がいるかということについて調査中です。
- ・このような状況を踏まえ、新年度以降の必要な予算措置も含め、検討しているところです。

- ・有料化により、新幹線や道の駅を使うことなく、ただ駐車している人をコントロールできますが、以前行ったアンケート調査では、多くは、新幹線に乗る人が駐車場を利用しているという結果でした。
- ・新幹線駅周辺では、福井村田製作所さんの研究開発センターや、ホテル、我々が整備しようとしている「越前たけふ未来創造基地」など、面的な整備がどんどん進んでいきます。
- ・駐車場の総量については、これらの開発の進捗状況を踏まえて考えていきたいと思っています。

Q

- ・有料化については、未定ということでしょうか。

A(山田市長)

- ・有料化に向けての調査検討をいま行っているところです。

Q

- ・自動運転について、本格運行の目標を教えてください。また、どのような運用システムを見込んでいるのでしょうか。

A(出口地域交通課長)

- ・今年の実証実験では、レベル2で運行します。その実験結果を踏まえ、レベル4での運行が可能となれば、国に申請をします。
- ・申請をして許可が出たら、1年間、レベル4で実施をすることとなります。そのため、うまくいけば、3年後にレベル4で運行できることになります。
- ・車両だけレベル4にすればよいわけではなく、信号など、道路環境も整備した上でレベル4での運行となるため、早くて3年かと思います。

A(山田市長)

- ・早ければ再来年(2027年)を目標とするという計画で、国に申請し、補助金をもらっています。

- ・計画どおりに進むかは、今年の実証実験の結果によります。また、国の補助制度についても、日本中で競争が激化しており、補助金を獲得できるかという問題もあります。
- ・順調にいけば2027年という目標で、実証実験を進めているところです。

A(出口地域交通課長)

- ・レベル4での運行エリアは、今年度実証実験を行うエリアの範囲内となります。

A(山田市長)

- ・今年度運行するルートぐらいでできると一番よいのですが、実証実験の結果によっては、もう少し狭い範囲で行うことになるかもしれません。
- ・ただ、今回のルートで2027年にレベル4の運行を行うのが目標だと思っています。

Q

- ・実証実験に係る今年度の予算はいくらでしょうか。

A(出口地域交通課長)

- ・総額 4,500 円を予定しています。
- ・このうち5分の4が国負担、5分の1が市負担となっており、6月補正予算で計上しています。

A(山田市長)

- ・昨年は満額、国の補助がりましたが、今年度は日本中から申請があり、5分の1は市で負担してほしいという話になりました。
- ・その市の負担分を、6月に予算化しました。

Q

- ・4,500 万円が、一般会計の中に含まれているということでしょうか。

A(出口地域交通課長)

- ・実証実験は、市が単独で行うのではなく、NTT西日本さんと福井鉄道さん、そして市の3者で1コンソーシアムという団体を組んで行います。
- ・この団体が 4,500 万円を拠出しますが、うち、900万円を市が団体に負担金として支出します。市が 4,500 万円を全額支出するわけではありません。

Q

・補正予算の体育館の空調設備について、令和10年度から小学校にも整備する計画になっていますが、いつまでに全ての小学校に設置するのかは、決まっていますか。

A(山田市長)

- ・決まっていません。
- ・おそらく、財政的な面が制約条件になると思います。
- ・まず中学校で整備し、その後、中学校でカバーできないような小学校から整備するという流れになると思います。
- ・長々と時間をかけるつもりはありませんが、できるだけ早く、予算の許す範囲で整備したいと考えています。

Q

- ・コウノトリ「ゆうきくん」は、今、兵庫県で飼育されているのでしょうか。
- ・また、放鳥に至った経緯を教えてください。

A(谷口農政課副課長)

- ・近親交配の危険性がなくなったことから、県が放鳥を決断しました。
- ・今は、兵庫県豊岡市で飼育されています。
- ・放鳥の前日に越前市に運搬し、いったん白山地区の飼育施設で休憩させて、当日の朝、もやいの郷へ運ぶという流れです。